

景気動向調査 報告書

2025年10-12月期実績
館山商工会議所

【目次】

I	調査方法と回答企業の概要	1
II	調査結果の概要について	2
III	製造業の景況	4
IV	建設業の景況	6
V	小売業の景況	8
VI	卸売業の景況	10
VII	飲食業の景況	12
VIII	サービス業の景況	14
IX	観光業の景況	16
	まとめ	18

I 調査方法と回答企業の概要

1 調査方法

この景気動向調査は館山市の企業を対象として、2026年1月に実施したものである。調査方法はFAXによる無記名の調査票(アンケート)回収方式である。

今回の調査票発送数、回答数、回答率は以下の通りである。

<調査回収状況>

業種	発送数(件)	回答数(件)	回答率	(参考)前回回答率
工業	18	12	66.7%	56.3%
製造業	8	7	87.5%	85.7%
建設業	10	5	50.0%	33.3%
商業	47	30	63.8%	63.6%
小売業	21	16	76.2%	85.0%
卸売業	4	3	75.0%	75.0%
飲食業	4	1	25.0%	25.0%
サービス業	13	9	69.2%	41.7%
観光業	5	1	20.0%	50.0%
合計	65	42	64.6%	61.7%

2 DIの意味【設問1】

景況を表すDIとはデフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、良くなったとする企業数(A)から、悪くなったとする企業数(B)を差し引いた数の全体に対する比率である。

工業関連企業(製造業・建設業)

商業関連企業(小売業・卸売業・飲食業・サービス業・観光業)

	A		B	
売上高	①増えた	②横ばい	③減った	
採算(経常利益)	①増えた	②横ばい	③減った	
引き合い	①増えた	②横ばい	③下がった	
受注・製品単価	①上がった	②変わらない	③減った	
在庫(製品)	①過剰になった	②変わらない	③不足になった	
資金繰り	①楽になった	②変わらない	③苦しくなった	
雇用者数	①増やした	②変わらない	③縮小した	
設備投資	①増やした	②変わらない	③縮小した	
今後の見通し(売上)	①良くなる	②変わらない	③悪くなる	

	A		B	
売上高	①増えた	②横ばい	③減った	
採算(経常利益)	①増えた	②横ばい	③減った	
客数	①増えた	②横ばい	③減った	
客単価	①増えた	②横ばい	③減った	
経費	①減った	②横ばい	③増えた	
資金繰り	①楽になった	②変わらない	③苦しくなった	
雇用者数	①増やした	②変わらない	③縮小した	
金融機関の融資状況	①容易になった	②変わらない	③困難になった	
今後の見通し(売上)	①良くなる	②変わらない	③悪くなる	

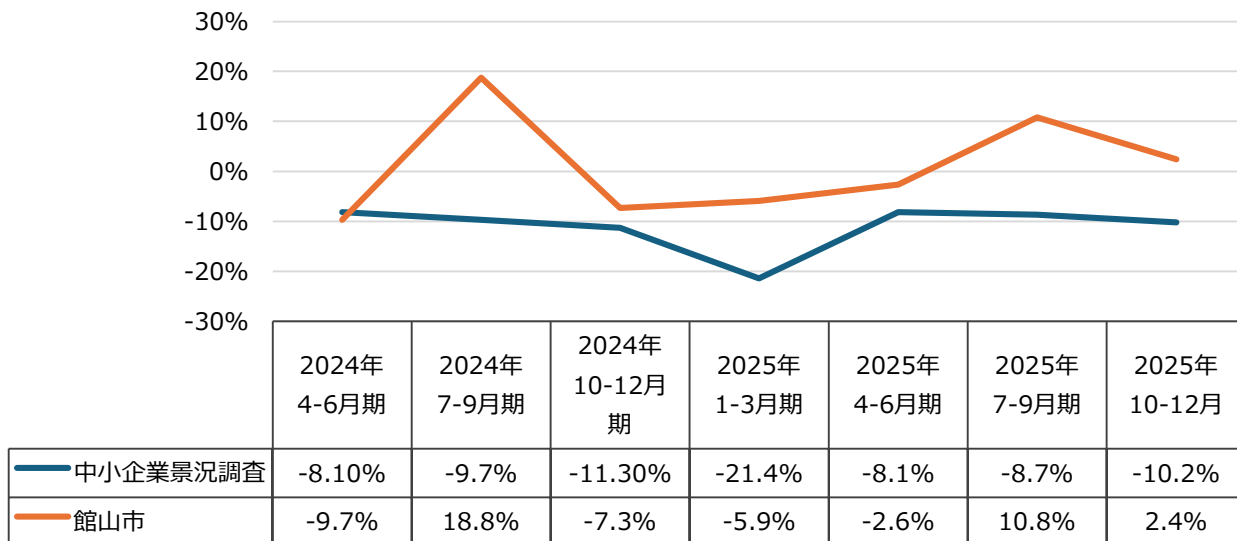
II 調査結果の概要について

1 売上高の状況

(1) 全国および千葉県との比較

館山市の全業種の売上 DI は前回調査より 8.4 ポイント下降し、2.4%となった。中小企業景況調査（中小機構・全国調査）（▲10.2%）と比べると 12.6 ポイント高い。

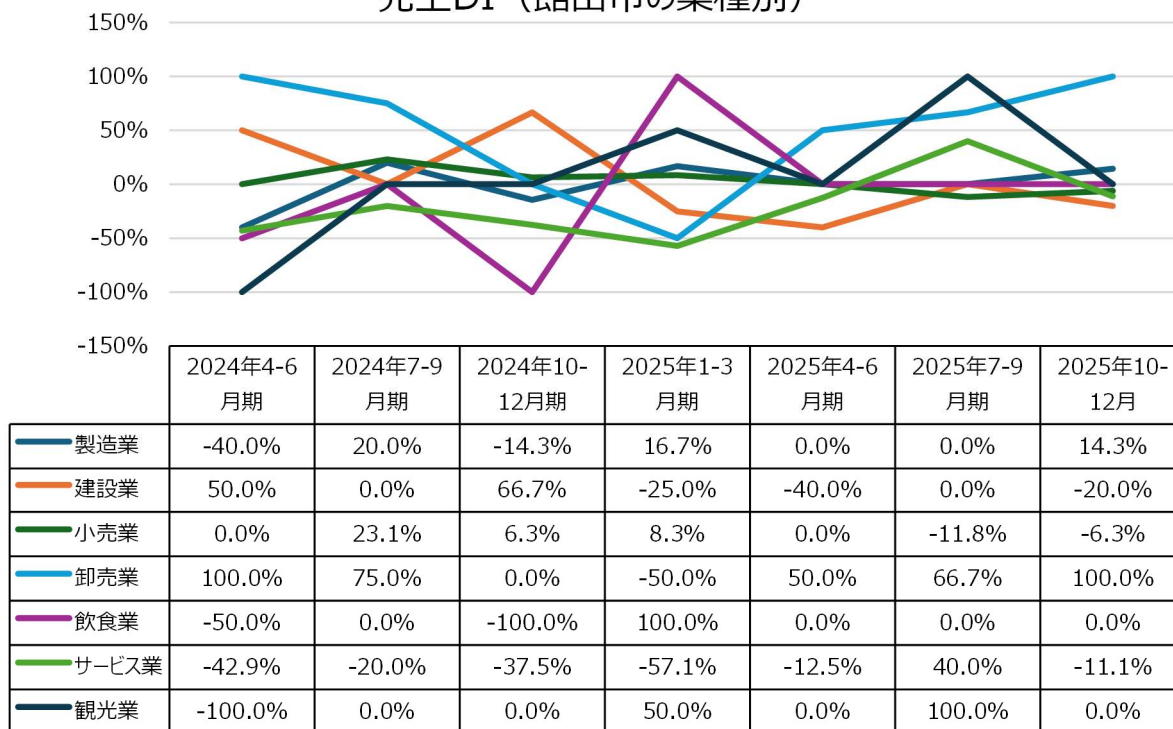
売上DI（全業種）



(2) 業種別

館山市の業種別の売上 DI は、工業関連企業においては、製造業が 14.3 ポイントの上昇、建設業が▲20.0 ポイントの下降となった。商業関連企業においては、サービス業が 51.1 ポイントの下降、観光業も 100.0 ポイントの下降となっている。

売上DI（館山市の業種別）

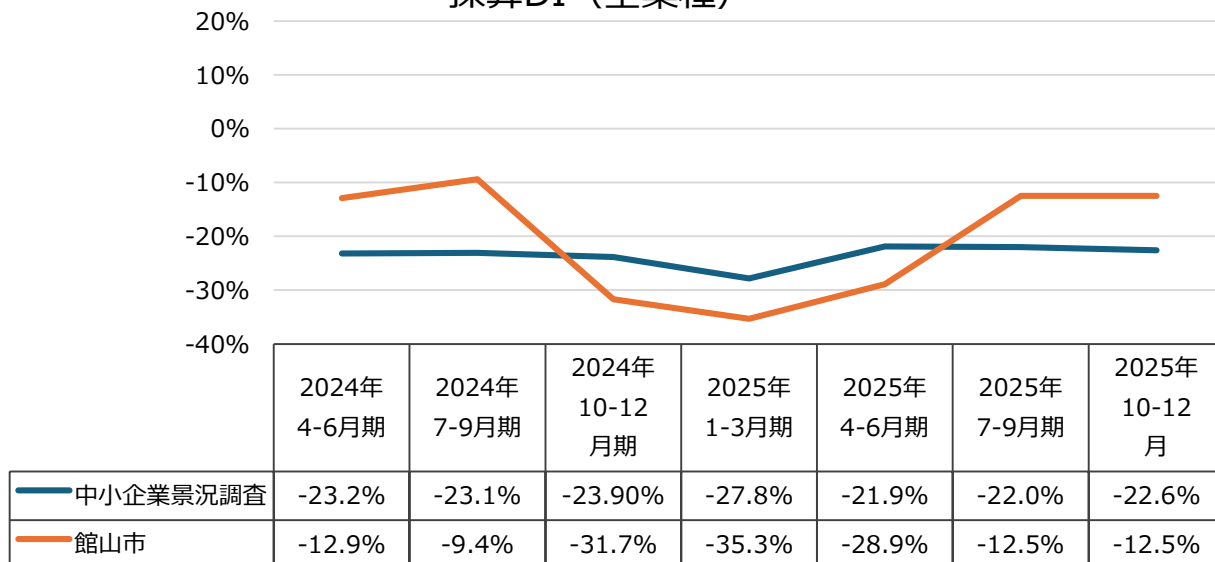


2 採算の状況

(1)全国および千葉県との比較

館山市の全業種の採算 DI は、前回調査と横ばいの▲12.5%となった。中小企業景況調査（中小機構・全国調査）（▲22.6%）と比べると、10.1 ポイント高くなっている。

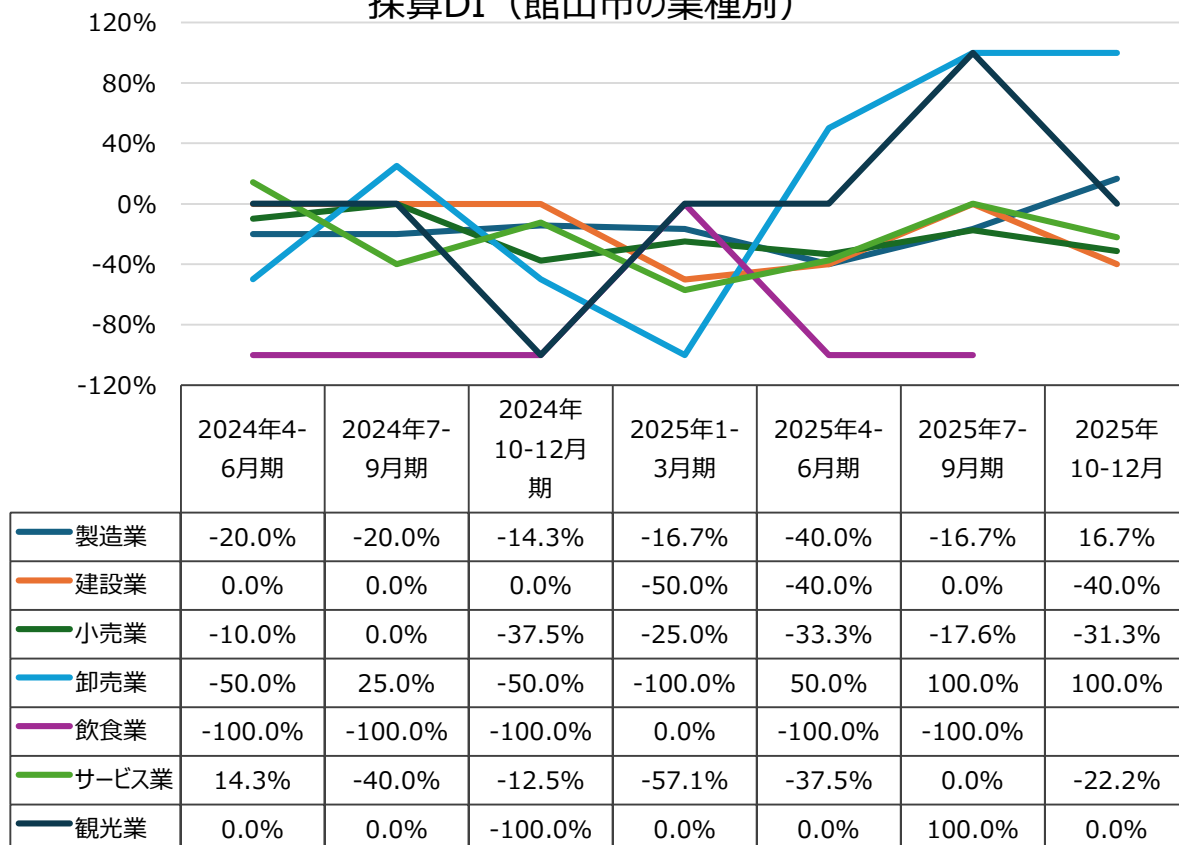
採算DI（全業種）



(2)業種別

館山市の業種別の採算 DI は、工業関連企業においては、製造業は 33.4 ポイント上昇、建設業は 40.0 ポイント下降した。商業関連企業においては、卸売業が横ばいとなった他は下降となっている。なお飲食業については無回答のため、算出不可だった。

採算DI（館山市の業種別）

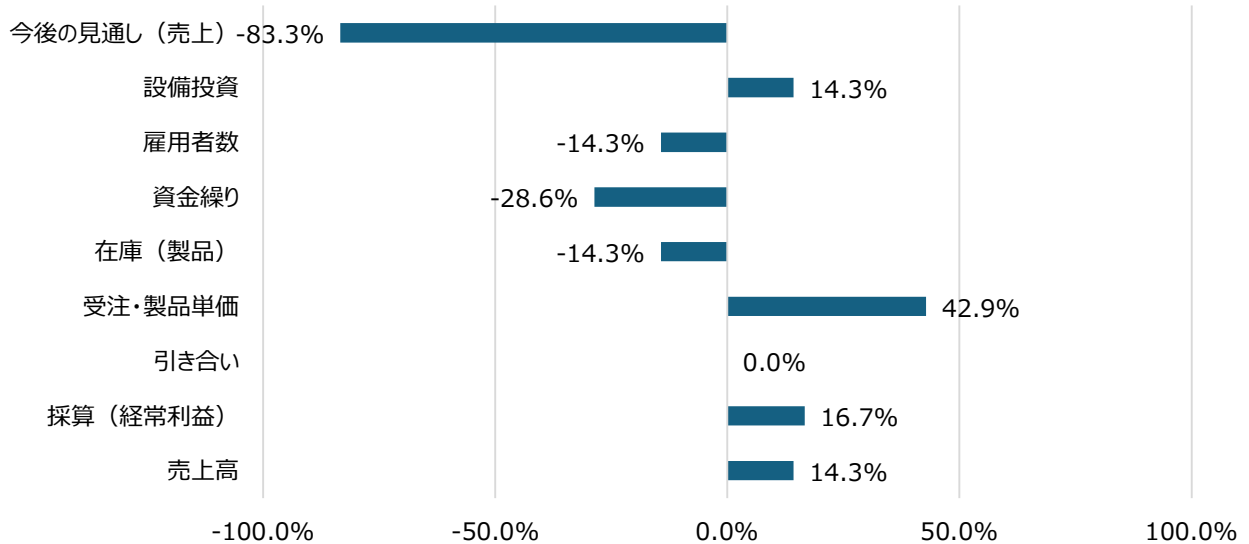


III 製造業の景況

1 製造業の経営状況の指標

各種 DI をみると「受注・製品単価」の DI は今回調査では 42.9%と一番高く、「採算（経常利益）」16.7%、「設備投資」「売上高」が 14.3%と続いている。また、「今後の見通し（売上）」が▲83.3%と大きくマイナスとなり、「資金繰り」▲28.6%、「雇用者数」「在庫（製品）」が▲14.3%と、それぞれマイナスとなった。

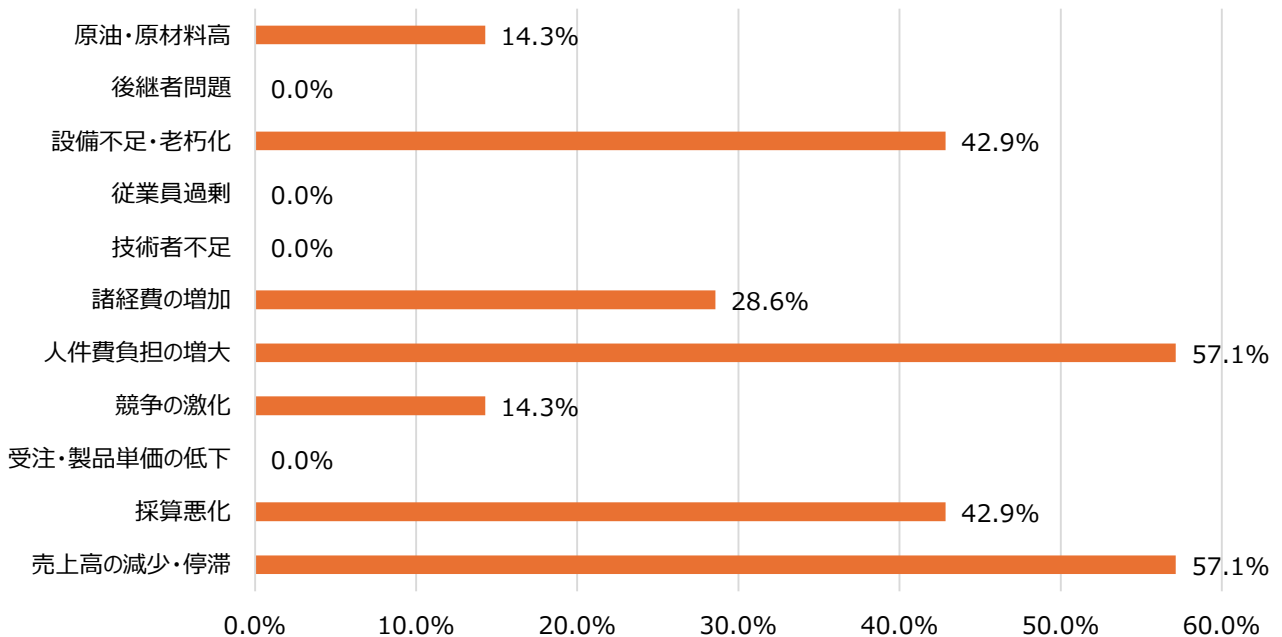
製造業の経営状況の指標



2 製造業の最近の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では「人件費負担の増大」「売上高の減少・停滞」が 57.1%と最も高く、「設備不足・老朽化」「採算悪化」が 42.9%、「諸経費の増加」が 28.6%と続いている。

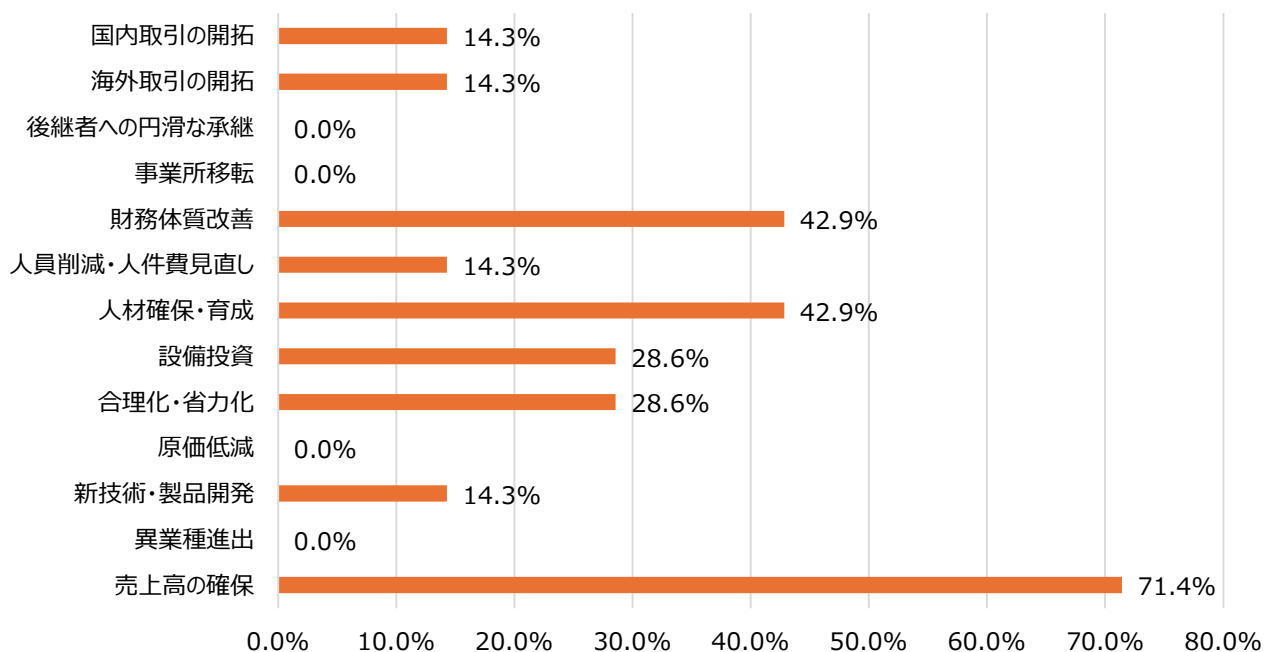
最近の経営上の問題点について



3 今後の製造業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では「売上高の確保」が71.4%と最も高く、「財務体質改善」「人材確保・育成」が42.9%、「設備投資」「合理化・省力化」が28.6%、「国内取引の開拓」「海外取引の開拓」「人員削減・人件費見直し」「新技術・製品開発」が14.3%と続いている。

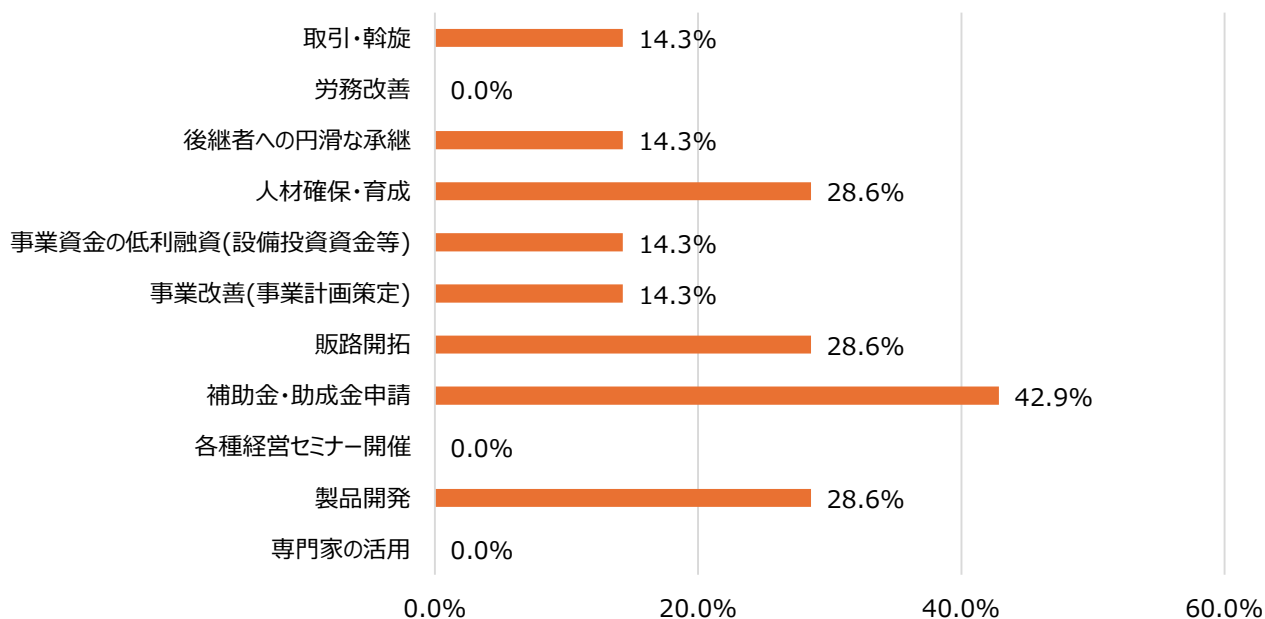
今後の経営課題について



4 今、製造業が必要としている支援・施策(いくつでも)

全体では「補助金・助成金申請」が42.9%と最も高く、「人材確保・育成」「販路開拓」「製品開発」が28.6%、「取引・斡旋」「後継者への円滑な承継」「事業資金の低利融資（設備投資資金等）」「事業改善（事業計画策定）」が14.3%と続いている。

今後、希望する支援・施策

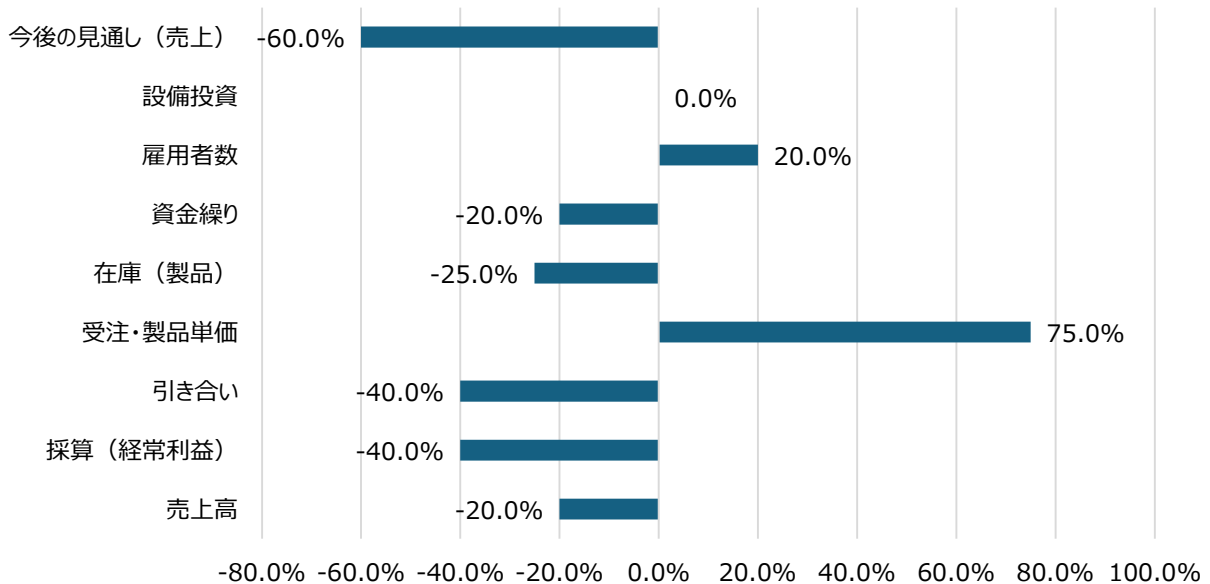


IV 建設業の景況

1 建設業の経営状況の指標

各種 DI をみると、「受注・製品単価」の DI が 75.0%と最も高く、「雇用者数」は 20.0%、「設備投資」は 0.0%となっている。最も低いのは「今後の見通し」▲60.0%で、「引き合い」「採算（経常利益）」が▲40.0%と続き、マイナスが多かった。

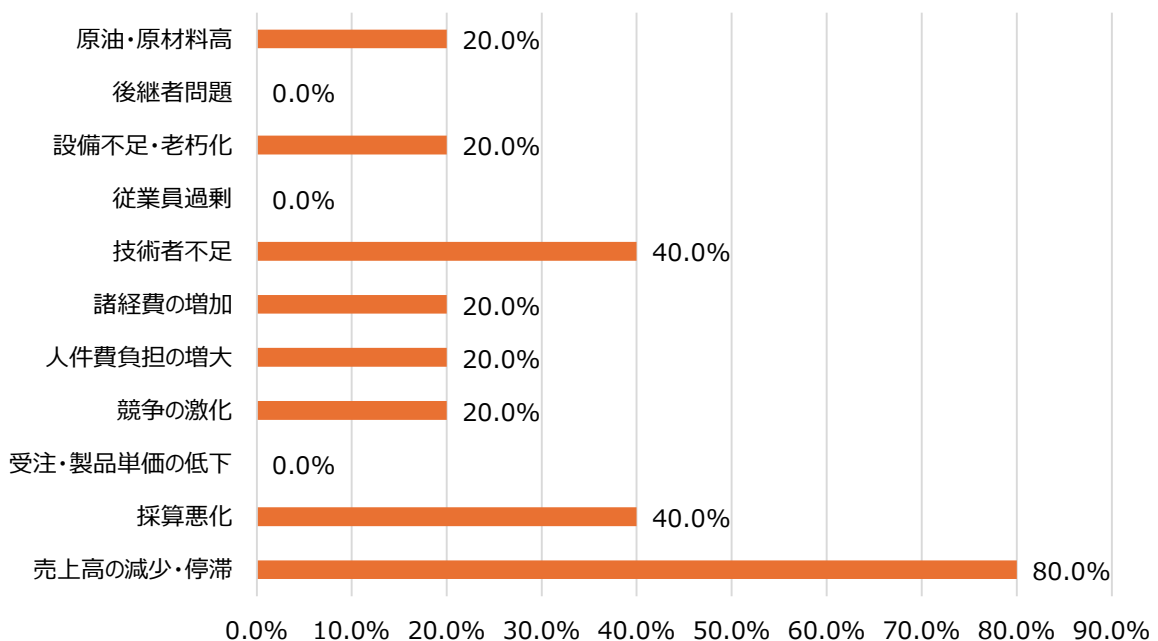
建設業の経営状況の指標



2 建設業の最近の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では「売上高の減少・停滞」が 80.0%と最も高く、「技術者不足」「採算悪化」が 40.0%と続いている。

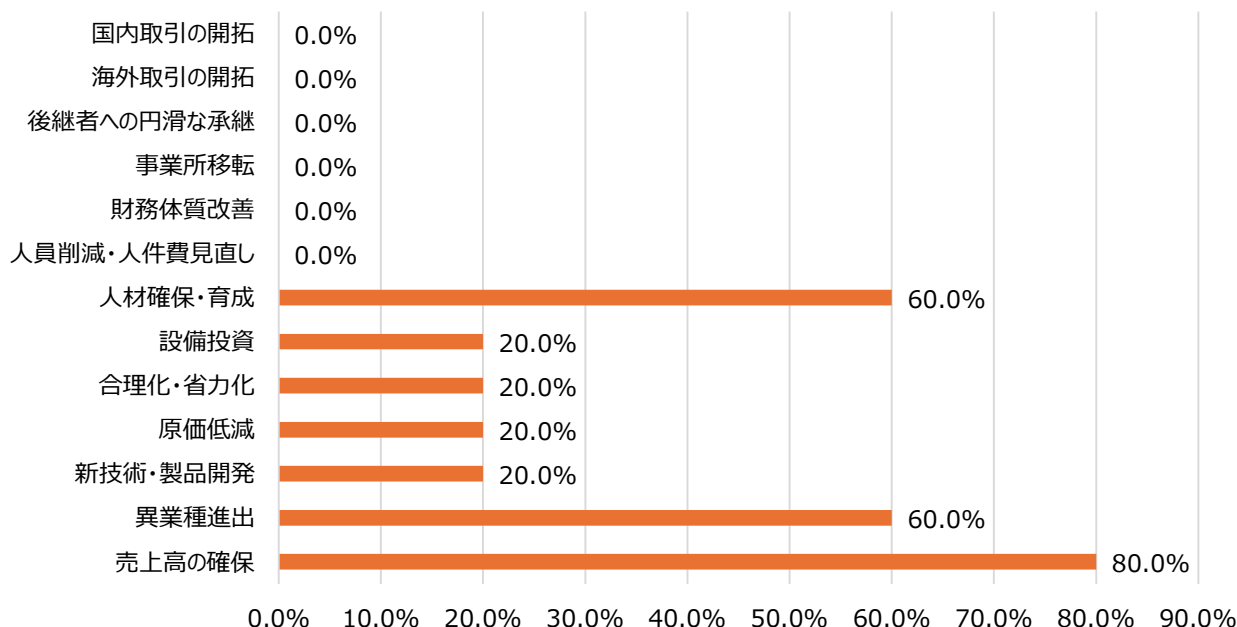
最近の経営上の問題点について



3 今後の建設業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では「売上高の確保」が 80.0%と最も高く、「人材確保・育成」「異業種進出」が 60.0%、「設備投資」「合理化・省力化」「原価低減」「新技術・製品開発」が 20.0%と続いている。

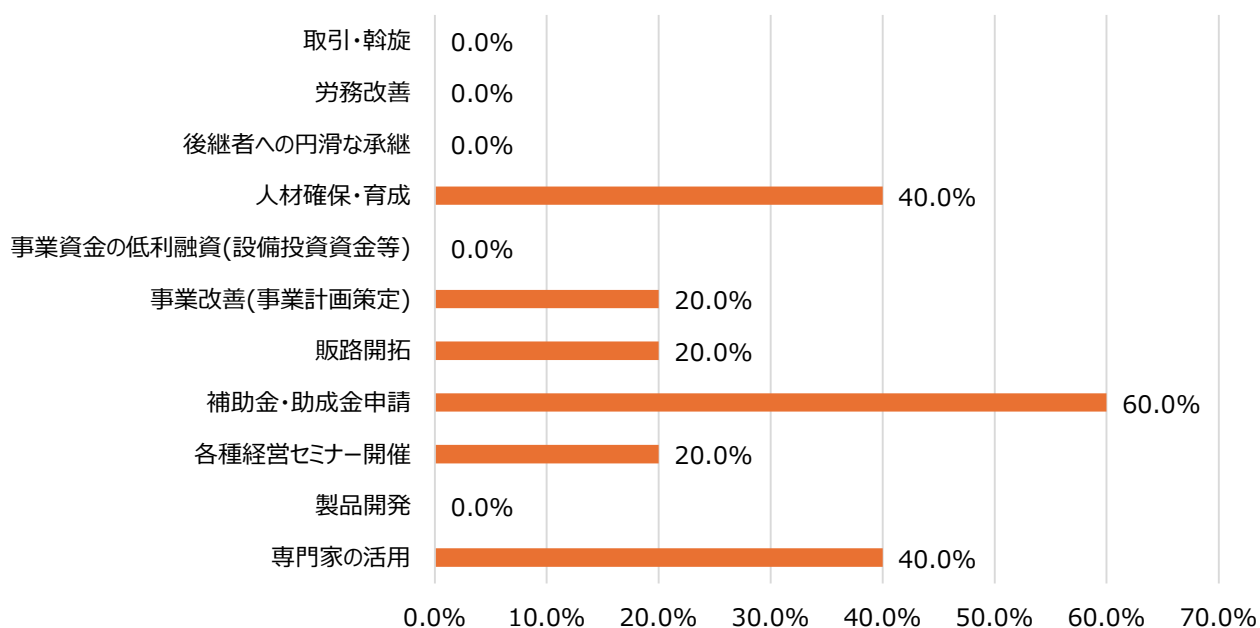
今後の経営課題について



4 今、建設業が必要としている支援・施策(いくつでも)

全体では「補助金・助成金申請」が 60.0%と最も高く、「人材確保・育成」「専門家の活用」が 40.0%、「事業改善(事業計画策定)」「販路開拓」「各種セミナー開催」が 20.0%と続いている。

今後、希望する支援・施策

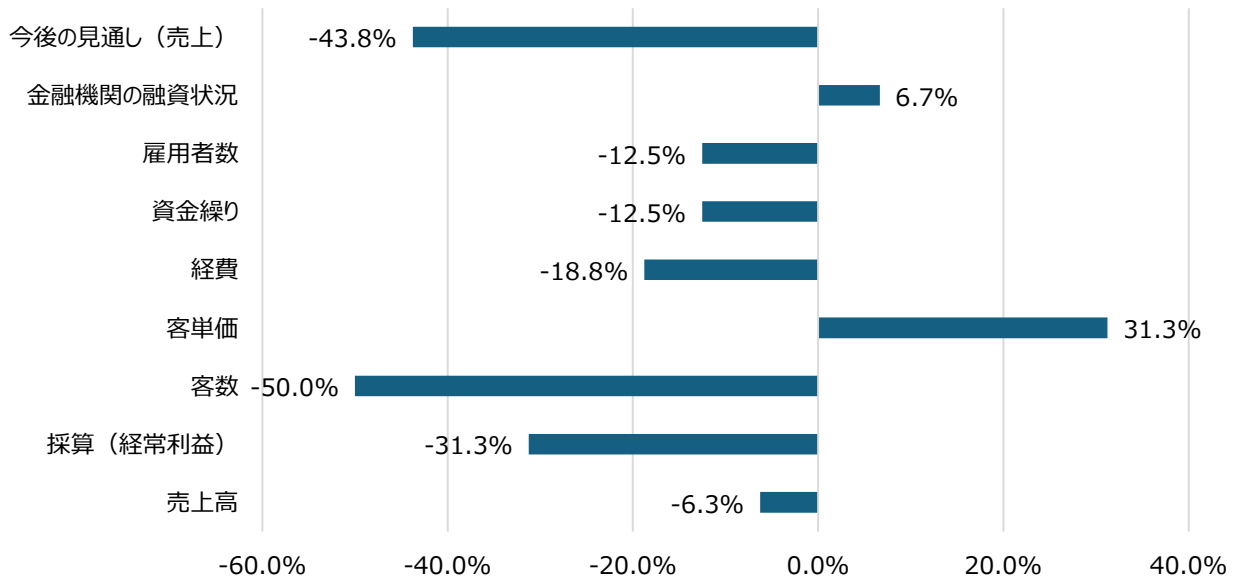


V 小売業の景況

1 小売業の経営状況の指標

各種 DI をみると、「今後の見通し（売上）」の DI が▲43.8%、「客数」が▲50.0%、「採算（経常利益）」が▲31.3%となっており、今回プラスの DI は「客単価」31.3%、「金融機関の融資状況」6.7%であった。

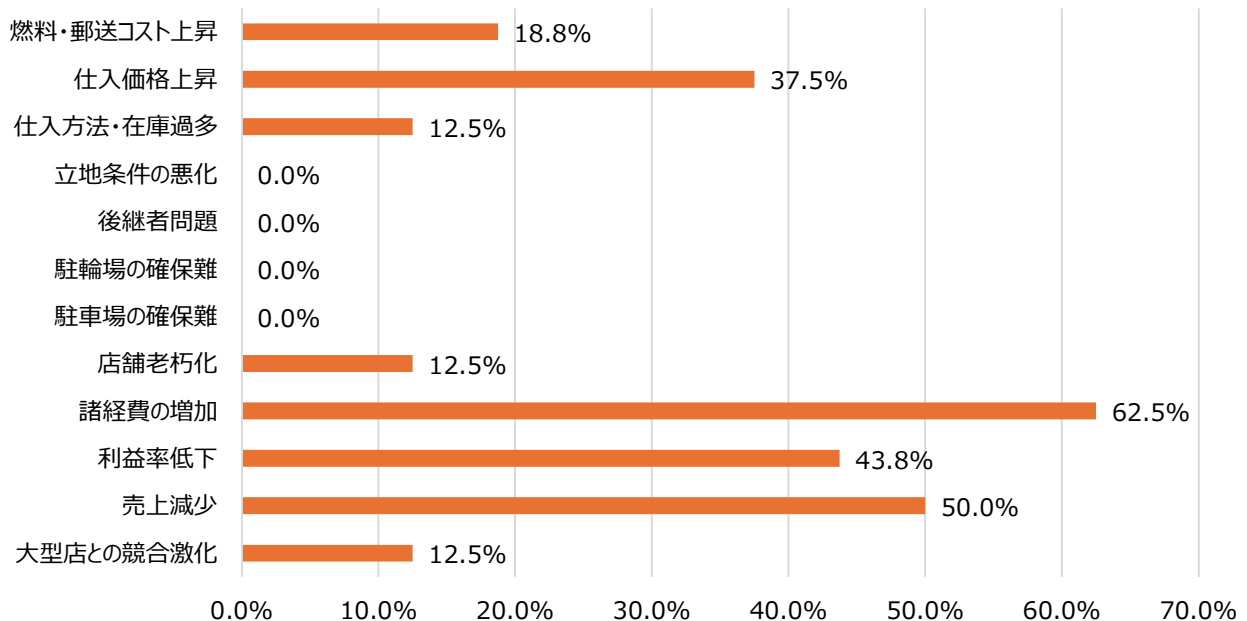
小売業の経営状況の指標



2 最近の小売業の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では「諸経費の増加」が 62.5%と最も高く、次に「売上減少」が 50.0%、「利益率低下」43.8%、「仕入価格上昇」37.5%、「燃料・郵送コスト上昇」が 18.8%と続いている。

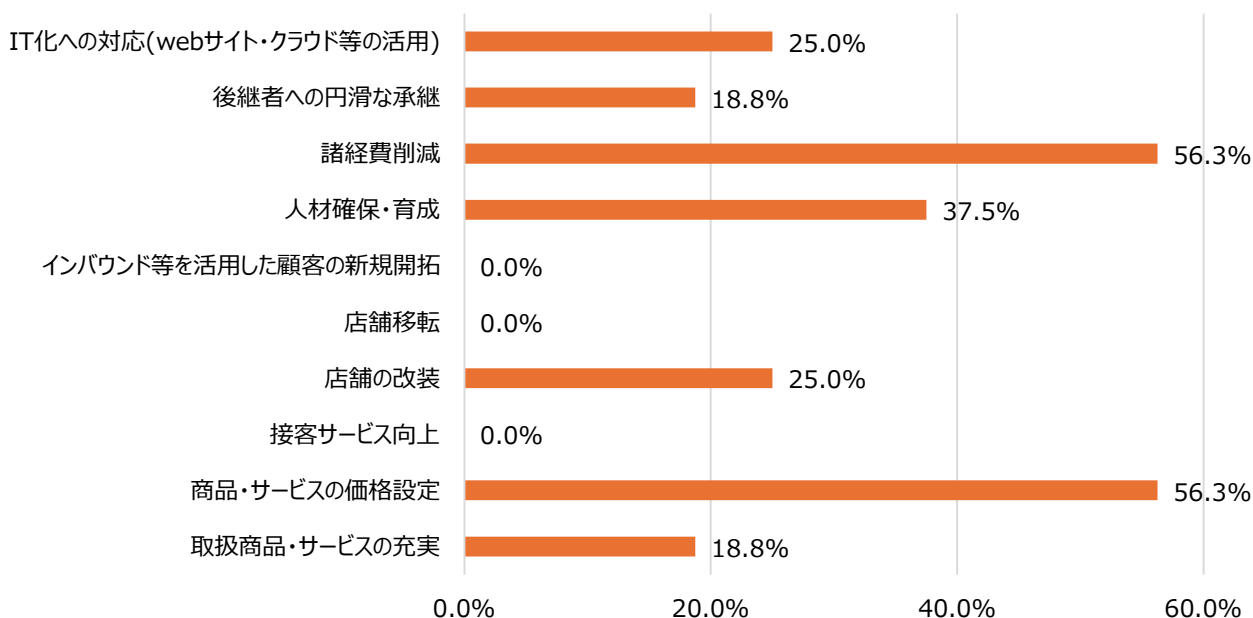
最近の経営上の問題点について



3 今後の小売業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では「諸経費削減」「商品・サービスの価格設定」が56.3%と最も高く、「人材確保・育成」が37.5%、「IT化への対応（webサイト・クラウド等の活用）」「店舗の改装」が25.0%、「後継者への円滑な承継」「取扱商品・サービスの充実」が18.8%となっている。

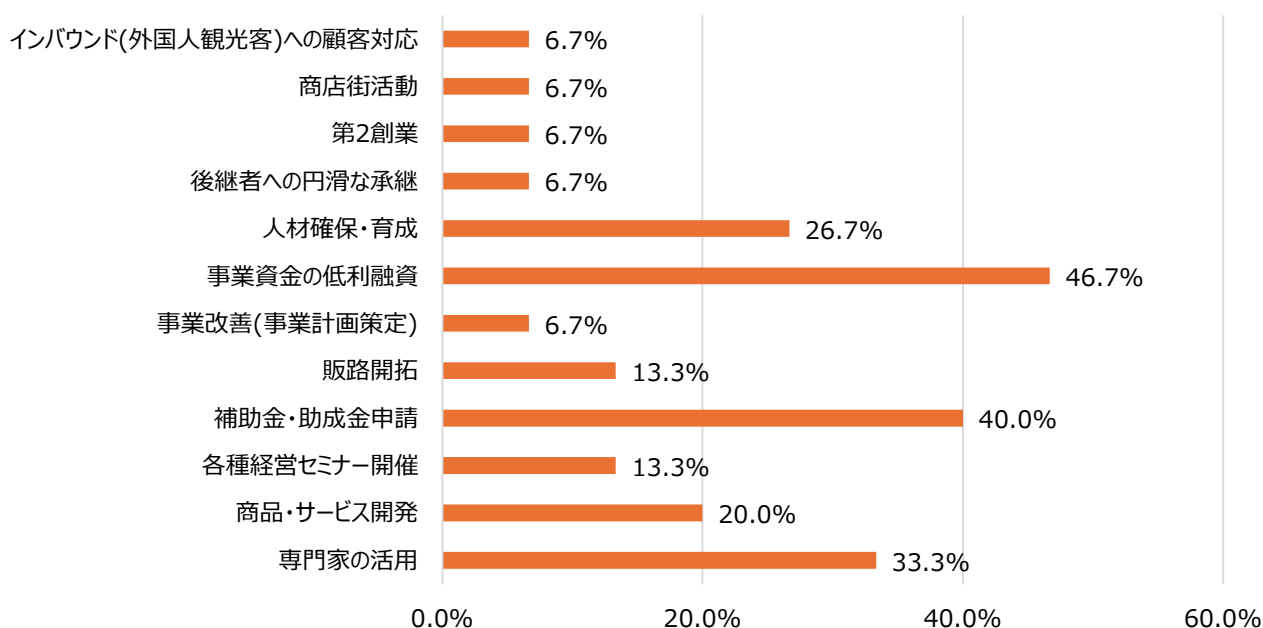
今後の経営課題について



4 今、小売業が必要としている支援・施策(いくつでも)

全体では「事業資金の低利融資」が46.7%と最も高く、「補助金・助成金申請」40.0%、「専門家の活用」33.3%、「人材確保・育成」26.7%、「商品・サービス開発」が20.0%と続き、以下様々な支援・施策を必要としている。

今後、希望する支援・施策

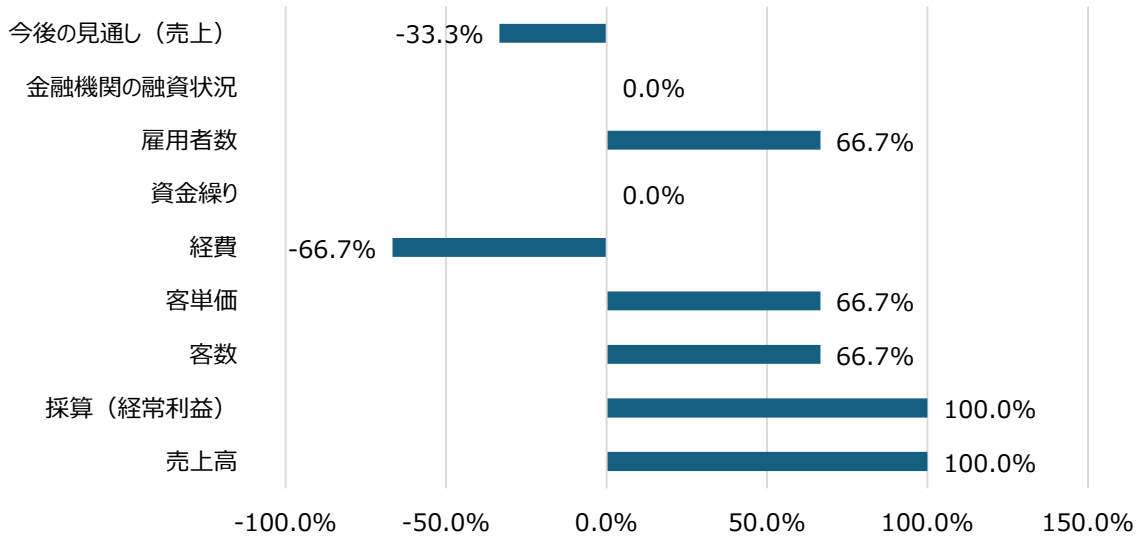


VI 卸売業の景況

1 卸売業の経営状況の指標

各種 DI をみると「採算（経常利益）」「売上高」の DI は今回調査で 100%となった。「雇用者数」「客単価」「客数」が 66.7%と続き、「経費」は▲66.7%、「今後の見通し（売上）」は▲33.3%となっている。

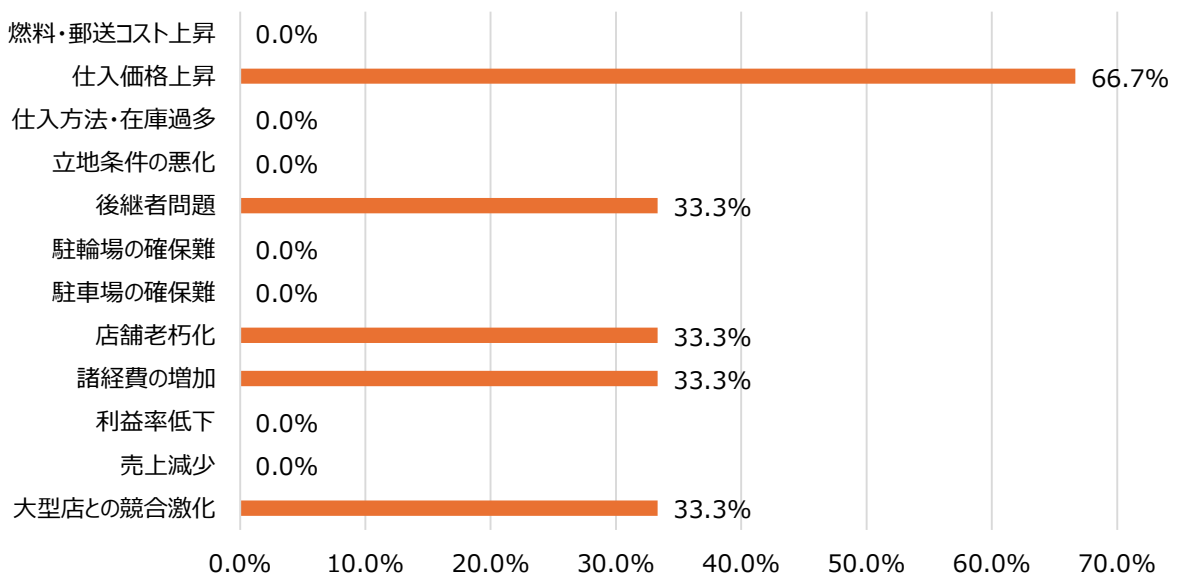
卸売業の経営状況の指標



2 最近の卸売業の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では「仕入価格上昇」が 66.7%と最も高く、「後継者問題」「店舗老朽化」「諸経費の増加」「大型店との競合激化」が 33.3%と続いている。

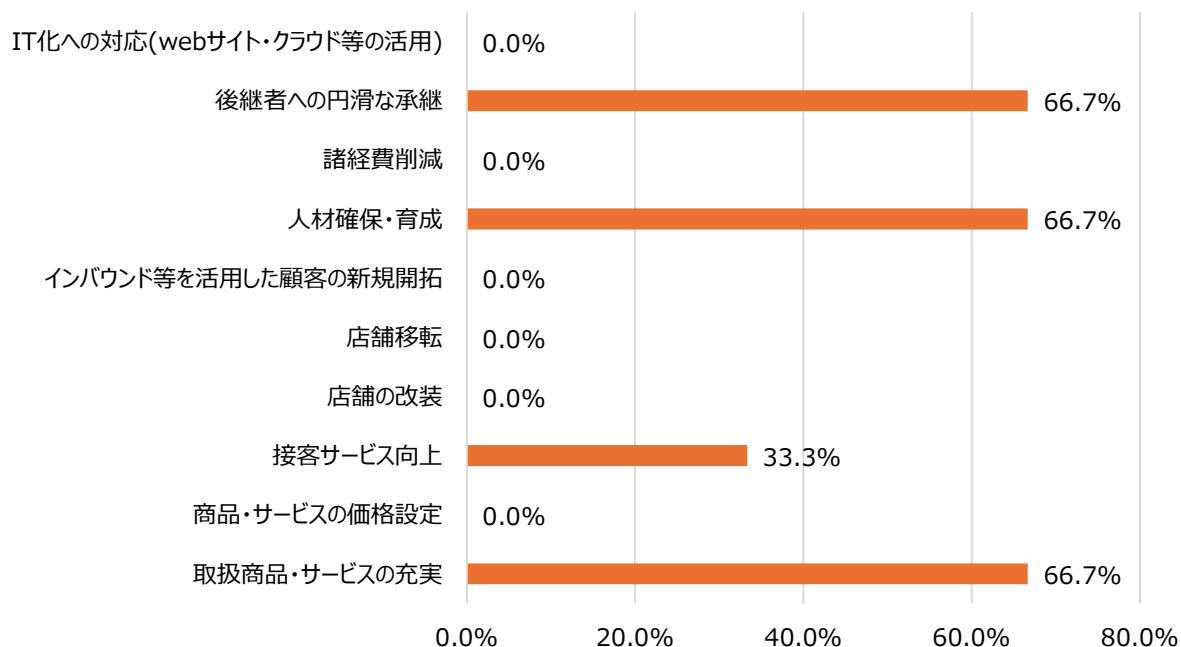
最近の経営上の問題点について



3 今後の卸売業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では「後継者への円滑な承継」「人材確保・育成」「取扱商品・サービスの充実」が66.7%、「接客サービス向上」が33.3%と続いている。

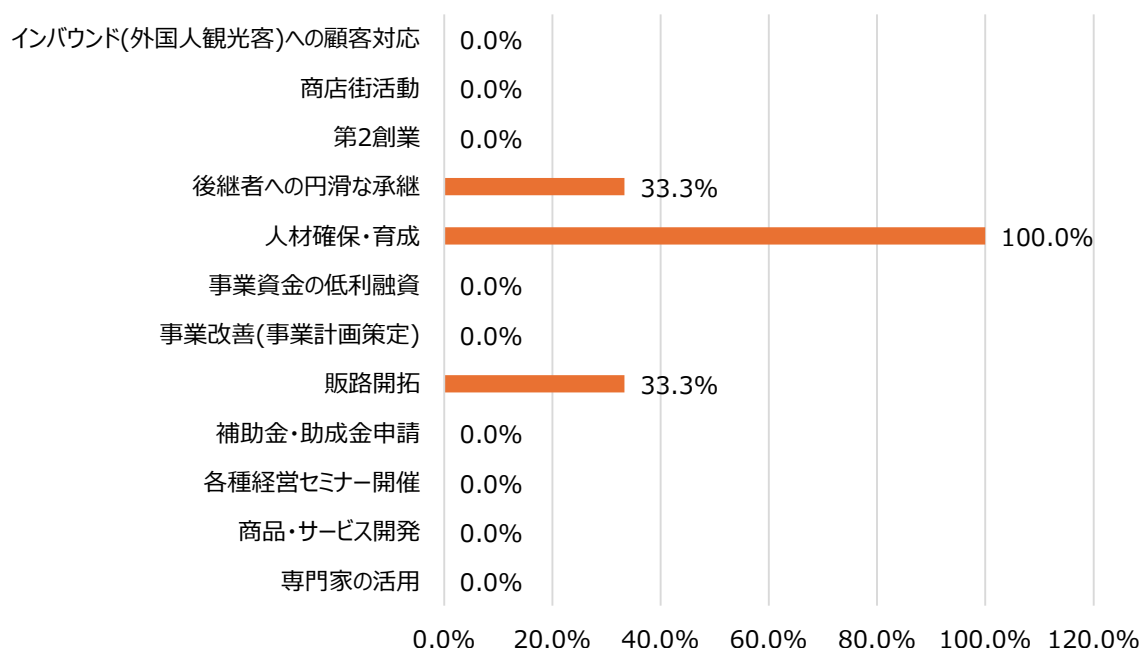
今後の経営課題について



4 今、卸売業が必要としている支援・施策(いくつでも)

全体では「人材確保・育成」が100.0%、「後継者への円滑な承継」「販路開拓」が33.3%となっている。

今後、希望する支援・施策

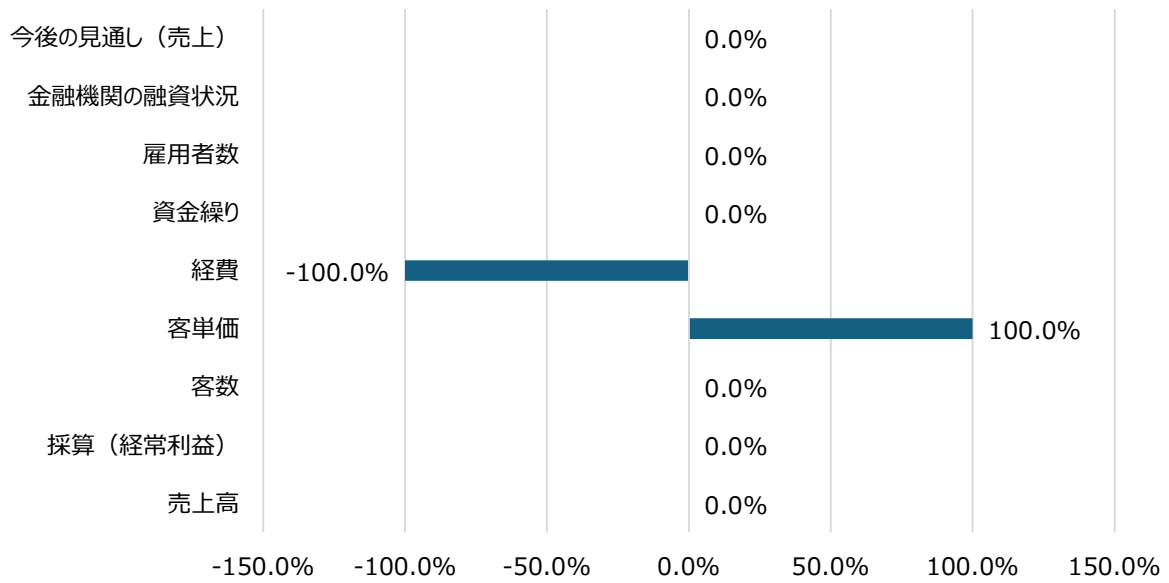


VII 飲食業の景況

1 飲食業の経営状況の指標

各種 DI をみると「客単価」の DI は▲100.0%となり、「経費」は▲100.0%となった。

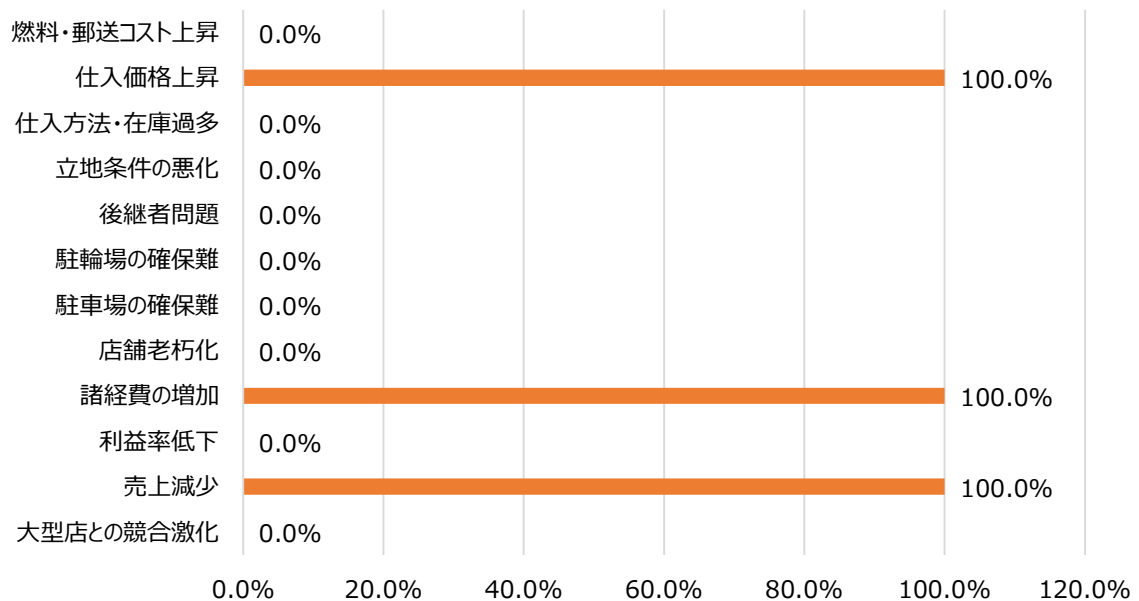
飲食業の経営状況の指標



2 最近の飲食業の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では「仕入価格上昇」「諸経費の増加」「売上減少」が 100.0%となっている。

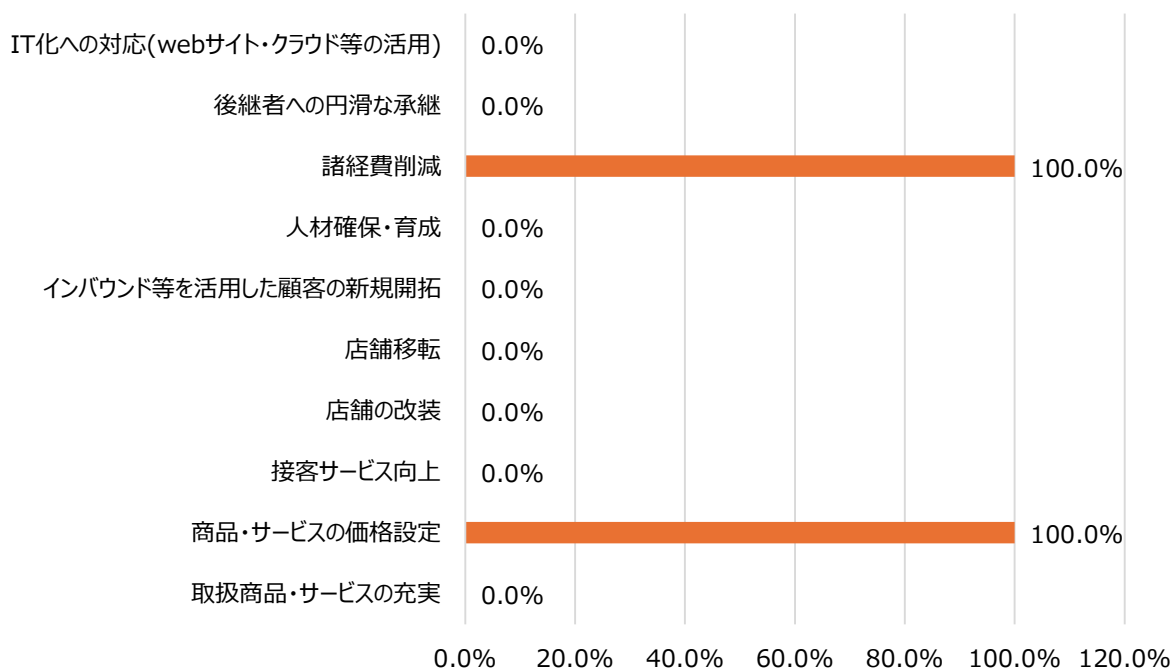
最近の経営上の問題点について



3 今後の飲食業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では「諸経費削減」「商品・サービスの価格設定」が100.0%となっている。

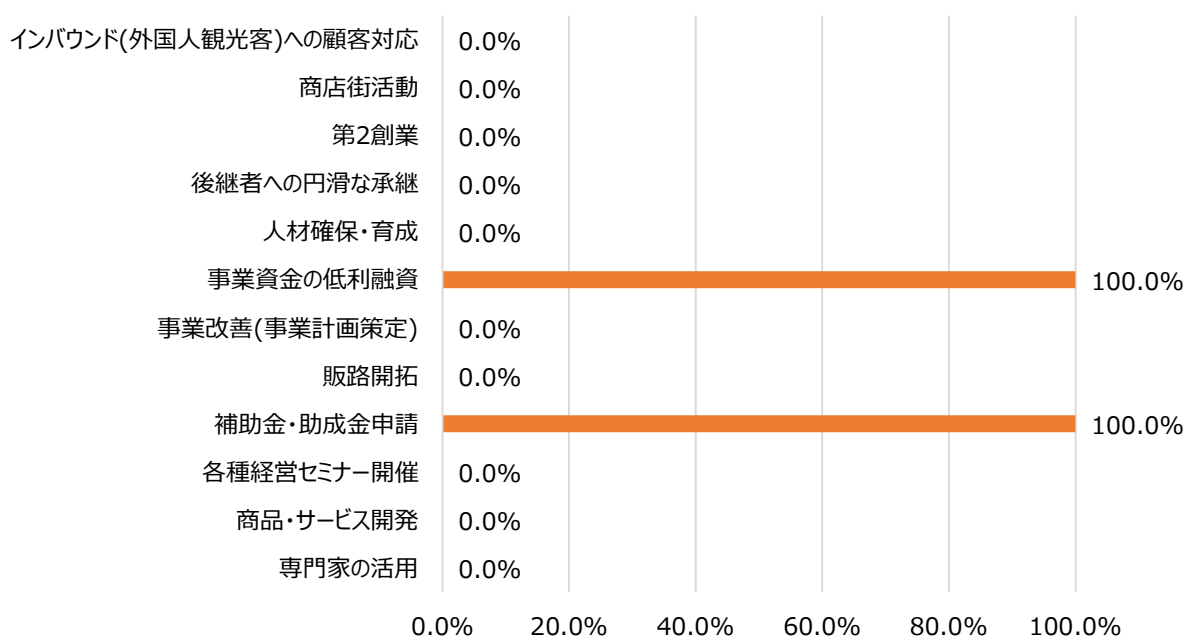
今後の経営課題について



4 今、飲食業が必要としている支援・施策(いくつでも)

全体では「事業資金の低利融資」「補助金・助成金申請」が100.0%となっている。

今後、希望する支援・施策

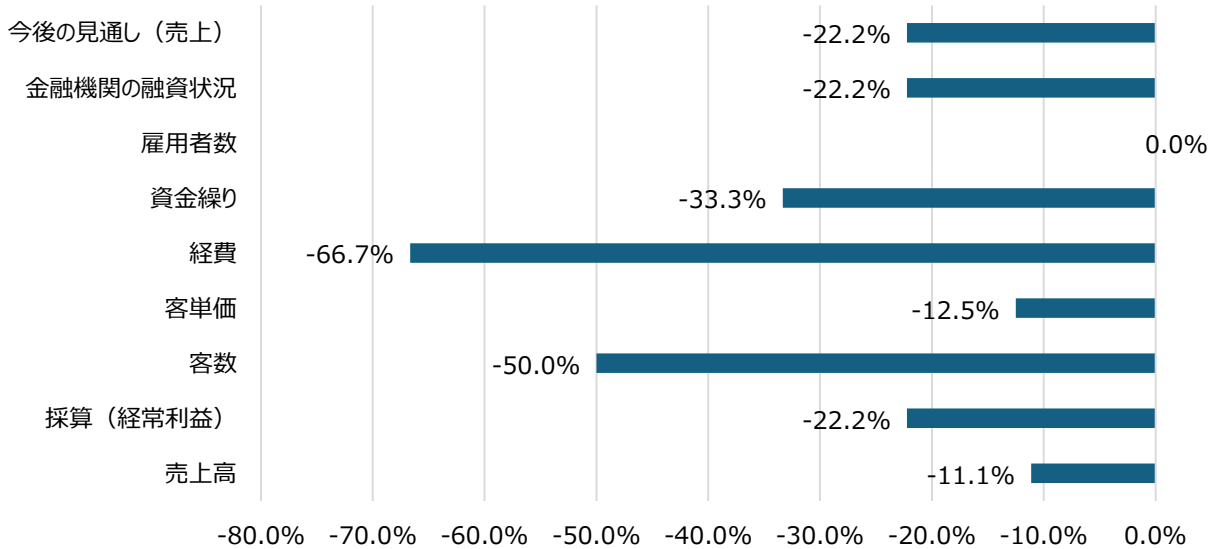


VIII サービス業の景況

1 サービス業の経営状況の指標

各種 DI をみると「雇用者数」を除きすべての DI がマイナスとなり、「経費」が最も低い▲66.7%、「客数」▲50.0%、「資金繰り」▲33.3%と続いている。

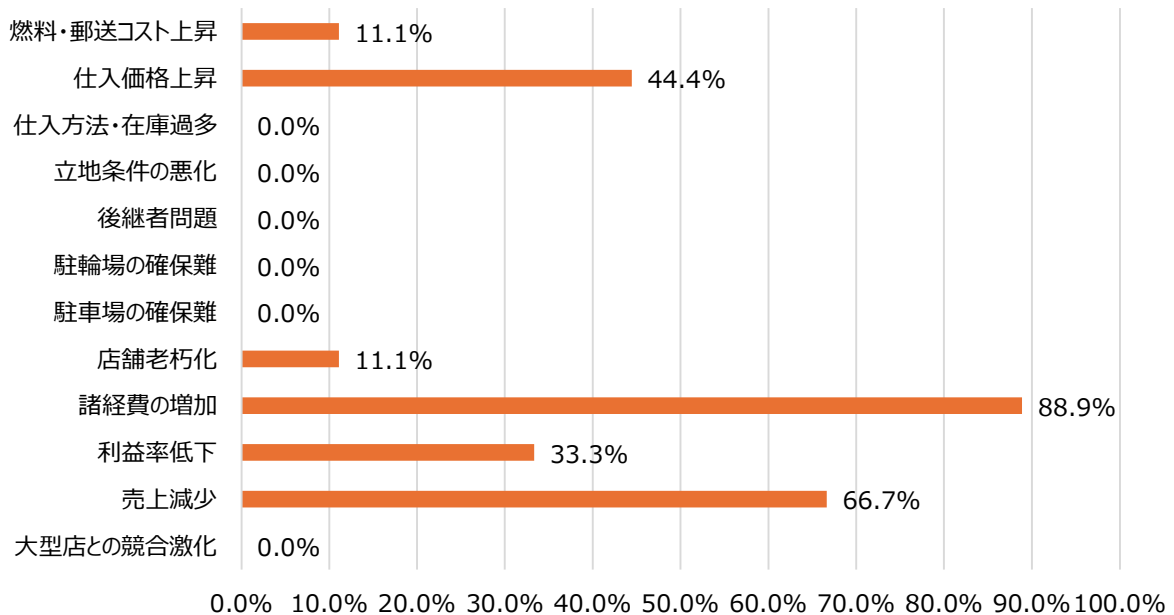
サービス業の経営状況の指標



2 最近のサービス業の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では「諸経費の増加」が88.9%と最も高く、「売上減少」が66.7%、「仕入価格上昇」が44.4%と続いている。

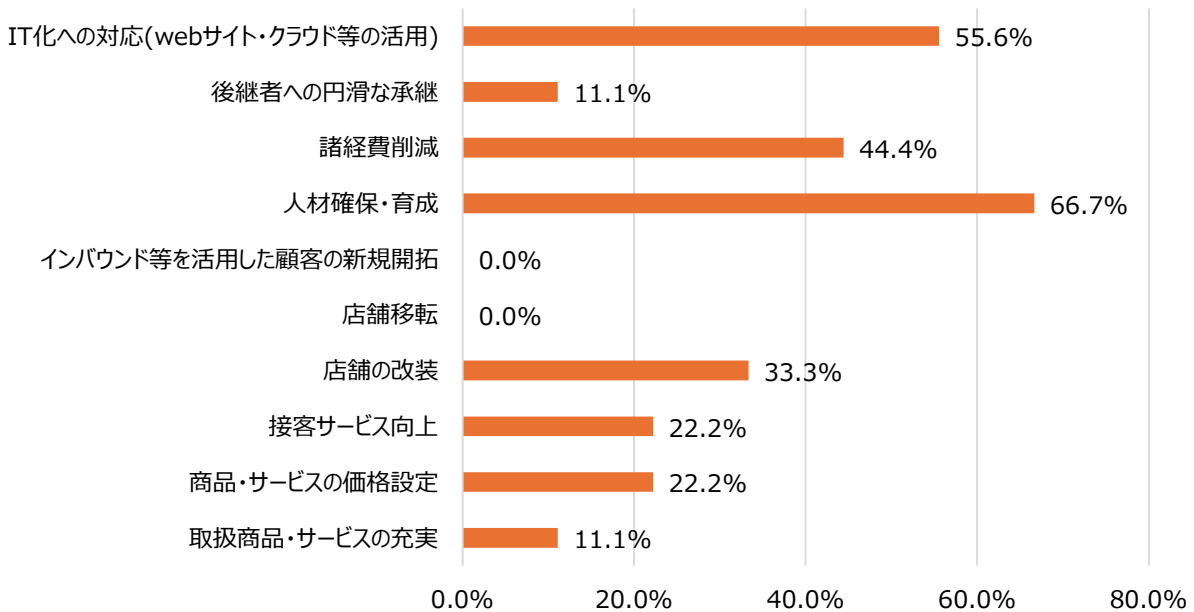
最近の経営上の問題点について



3 今後のサービス業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では「人材確保・育成」が66.7%と最も高く、「IT化への対応（WEBサイト・クラウド等の活用）」が55.6%、「諸経費削減」44.4%、「店舗の改装」33.3%と続き、「接客サービス向上」「商品・サービスの価格設定」が22.2%となっている。

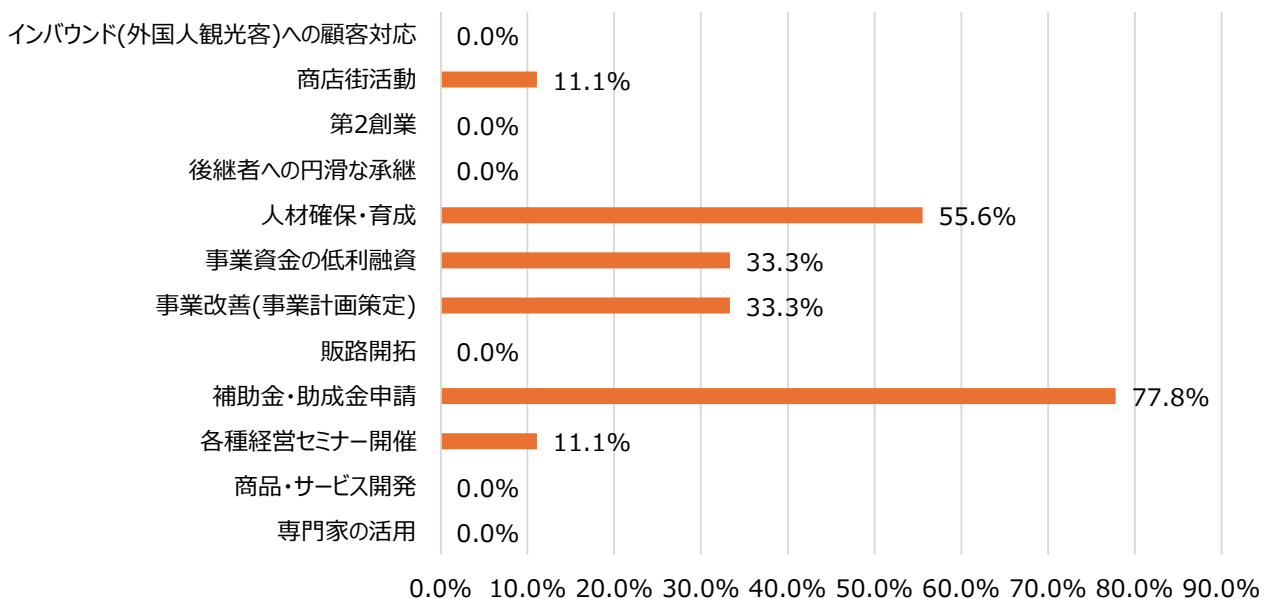
今後の経営課題について



4 今、サービス業が必要としている支援・施策(いくつでも)

全体では「補助金・助成金申請」が77.8%と最も高く、「人材確保・育成」が55.6%、「事業資金の低利融資」「事業改善（事業計画策定）」が33.3%と続いている。

今後、希望する支援・施策

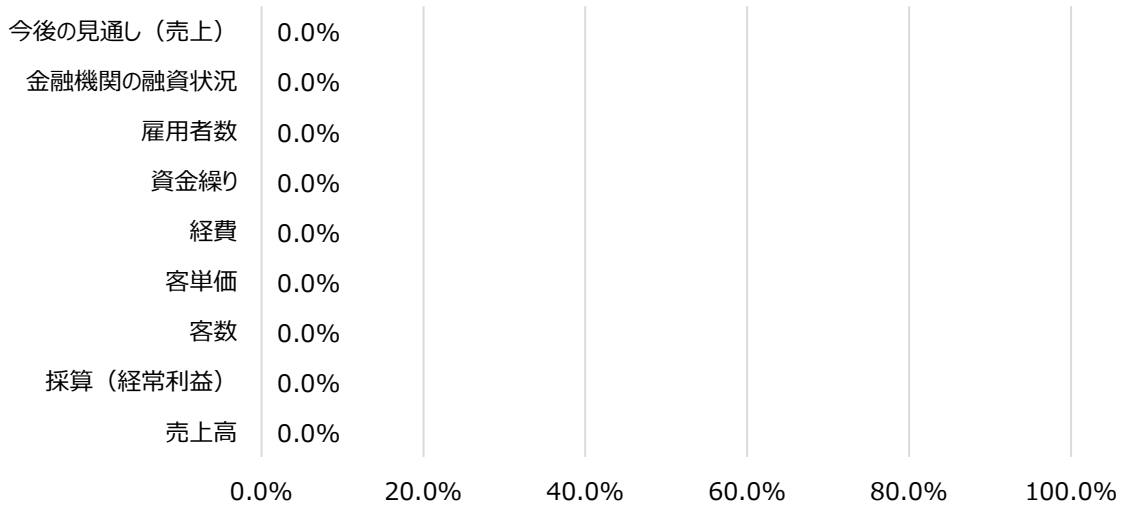


IX 観光業の景況

1 観光業の経営状況の指標

今回の調査ではすべての項目がゼロとなった。

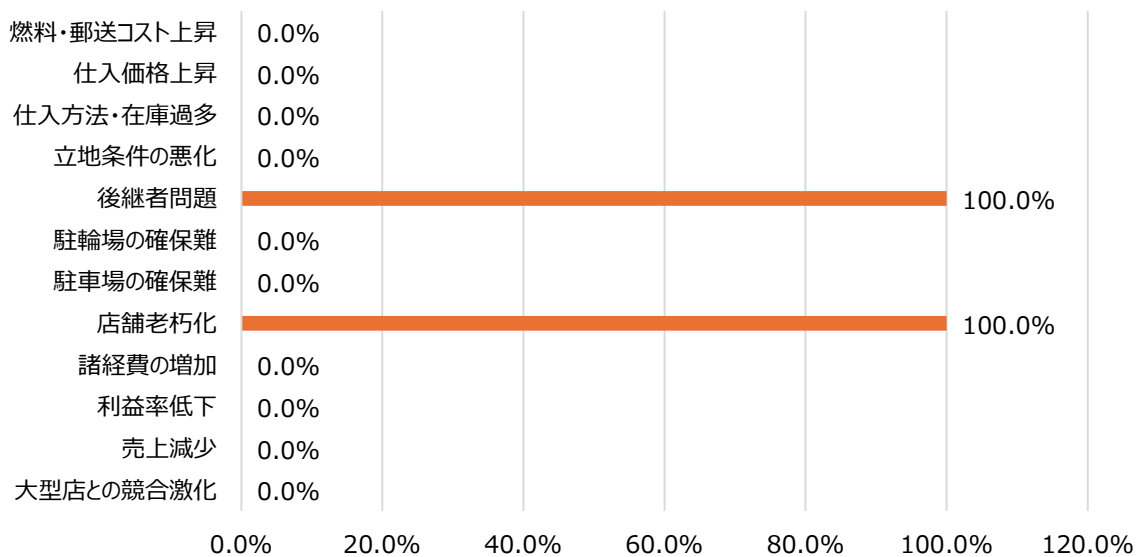
観光業の経営状況の指標



2 最近の観光業の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では「後継者問題」「店舗老朽化」が 100.0%となっている。

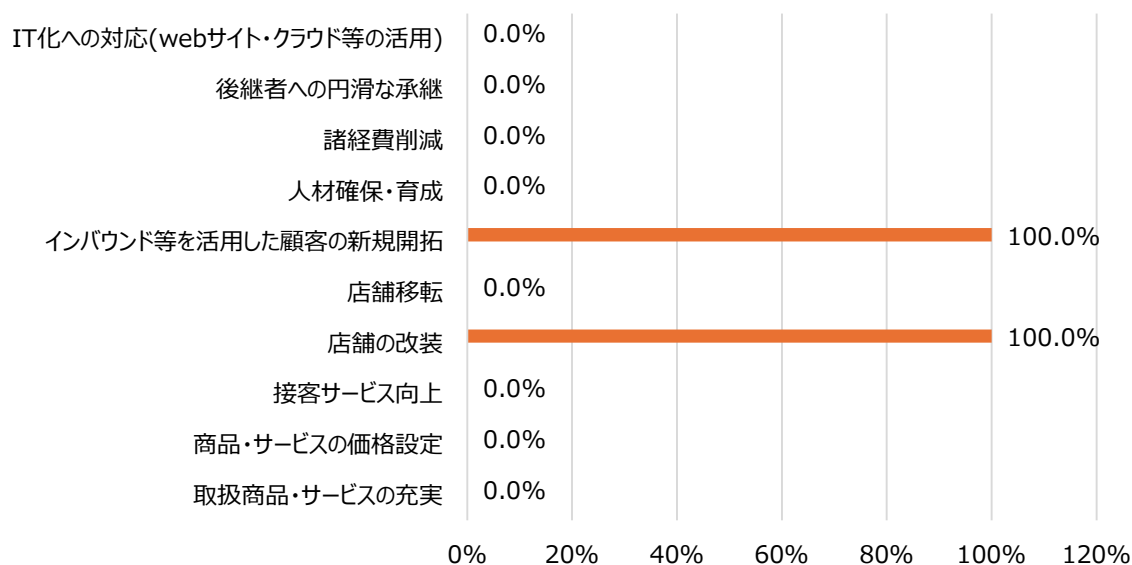
最近の経営上の問題点について



3 今後の観光業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では「インバウンド等を活用した顧客の新規開拓」「店舗の改装」が100.0%となった。

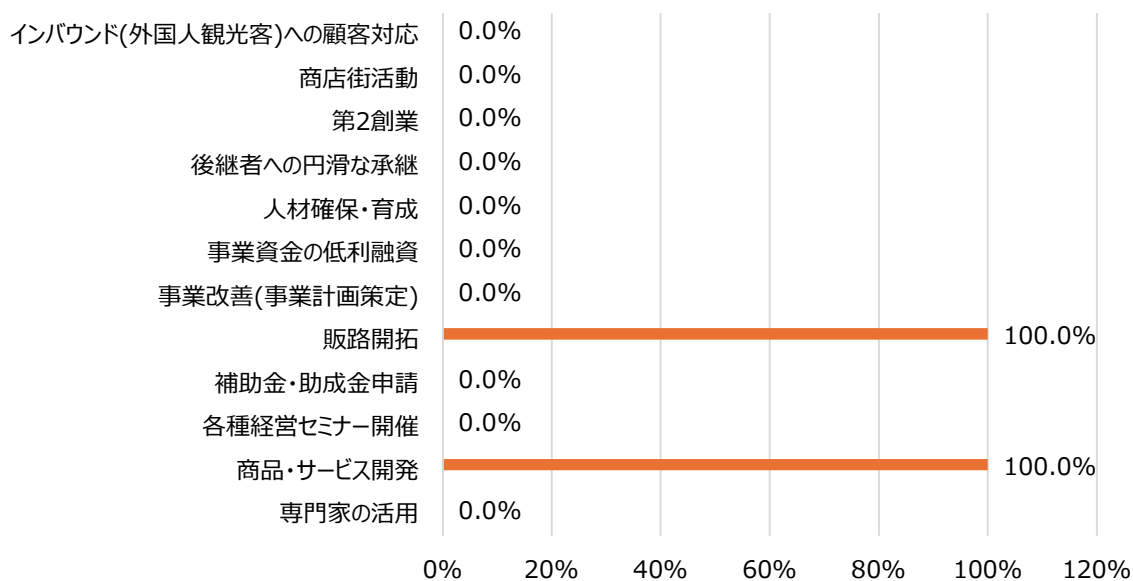
今後の経営課題について



4 今、観光業が必要としている支援・施策(いくつでも)

全体では「販路開拓」「商品・サービス開発」が100.0%となっている。

今後、希望する支援・施策

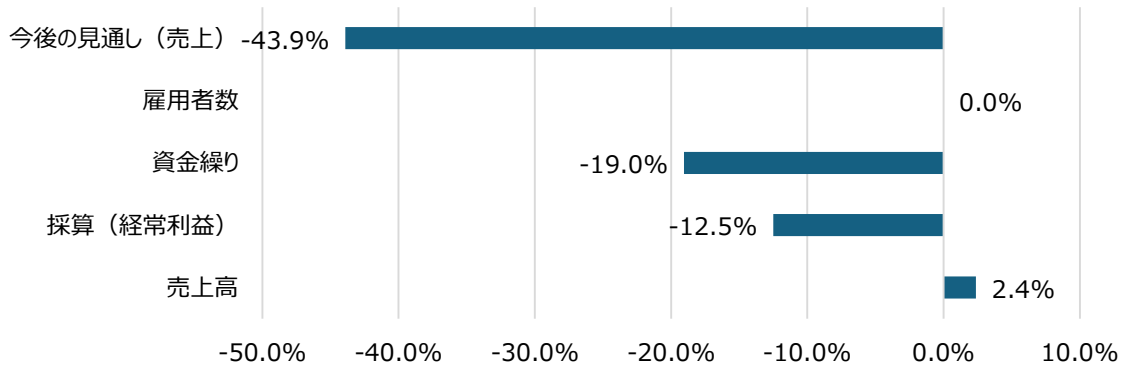


まとめ

1 景気動向の概要

館山市の全業種の景気動向をみると「今後の見通し（売上）」のDIは▲43.9%、「資金繰り」▲19.0%、「採算（経常利益）」が▲12.5%となっており、「売上高」のDIのみプラスの2.4%となっている。

全業種の経営状況の指標（館山市）



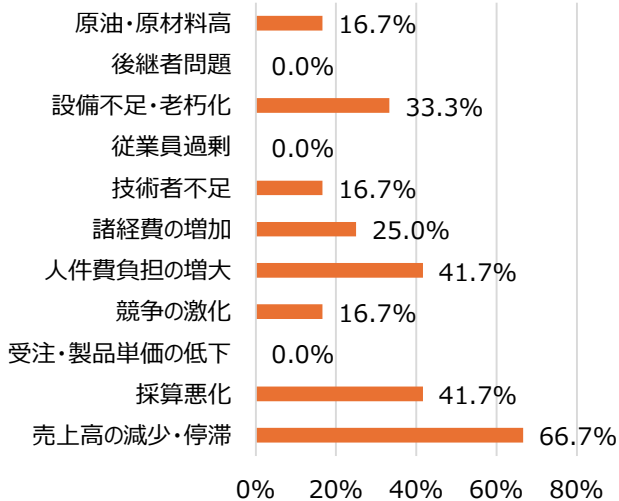
業種別にみると「建設業」「小売業」「サービス業」で売上高DIがマイナス、「飲食業」「観光業」でプラスマイナスゼロ、「製造業」「卸売業」でプラスとなった。また、採算DIは「建設業」「小売業」「サービス業」でマイナス、「観光業」でプラスマイナスゼロ、「製造業」「卸売業」でプラスとなった。

2 最近の経営上の問題点

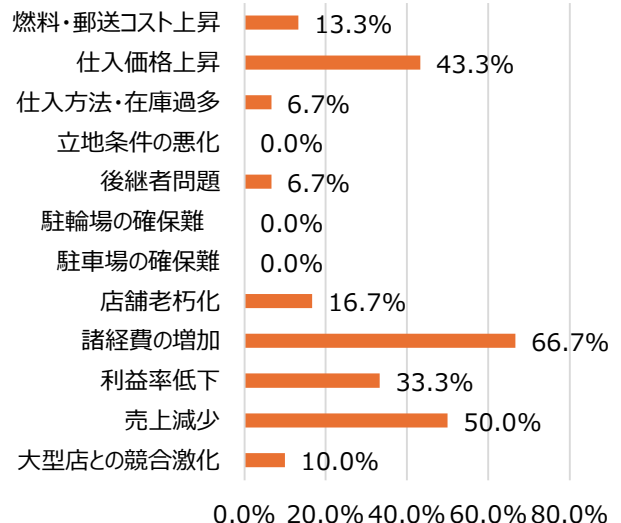
工業関連企業（製造業・建設業/左図）の経営上の問題点をみると、「売上高の減少・停滞」が最も割合が高く、66.7%となっている。また、商業関連企業（小売業・卸売業・飲食業・サービス業・観光業/右図）の経営上の問題点をみると、「諸経費の増加」が66.7%と最も高くなっており、「売上減少」が50.0%と続いている。

最近の経営上の問題点

工業関連企業



商業関連企業



3 今後の経営課題

工業関連企業の経営課題をみると、製造業は「売上高の確保」が 71.4%で、「財務体質改善」「人材確保・育成」が 42.9%となっている。建設業でも「売上高の確保」が最も高い 80.0%で、「人材確保・育成」「異業種進出」が 60.0%と続いている。工業関連企業では「売上高の確保」「人材確保・育成」など、課題が重なる部分がある。

また、商業関連企業の経営課題をみると、小売業は「経費削減」「商品・サービスの価格設定」が 56.3%、卸売業は「後継者への円滑な承継」「人材確保・育成」「取扱商品・サービスの充実」が 66.7%、飲食業は「諸経費削減」「商品・サービスの価格設定」が 100.0%、サービス業は「人材確保・育成」が 66.7%、観光業は「インバウンド等を活用した顧客の新規開拓」「店舗の改装」が 100.0%とそれぞれ最も高かった。商業関連の各企業では「経費削減」「人材確保・育成」など共通する課題もあるが、業態ごとに様々な問題がある。

館山市では人口減少と高齢化が加速し、特に若年層の流出が顕著であるため、各産業において深刻な労働力不足が課題となっている。また人手不足を補うための生産性向上やデジタル化（DX）の活用も十分ではなく、経営課題の可視化を図ることも大切である。

4 必要としている支援・施策

工業関連企業の必要としている支援・施策をみると、「補助金・助成金申請」が製造業（42.9%）・建設業（60.0%）ともに最も高くなっている。

商業関連企業の必要としている支援・施策では、小売業で「事業資金の低利融資」46.7%、卸売業で「人材確保・育成」100.0%、飲食業で「事業資金の低利融資」「補助金・助成金申請」100.0%、サービス業で「補助金・助成金申請」77.8%、観光業で「販路開拓」「商品・サービス開発」100.0%が最も高くなっている。

人手不足であろうとも生産性を向上させるため、自動化やデジタル化を行っていくことも重要である。今後は「人材募集・職場環境の整備」や「業務のデジタル化・AI 導入」などをテーマとしたセミナーを開催するなどの支援を行うことが必要であると考えられる。